

漢代の人々

— 姿と想い —

令和6年3月16日(土)～9月8日(日)



兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

漢時代(紀元前202年～後220年)は、先行した秦王朝が成し遂げた国家統一を継承し、発展させ、アジア最大の国家が約400年の長きにわたり続いた時代である。社会経済が発達し、様々な文化も隆興するが、その中で銅鏡の文化も大きく開花した。数多く制作された銅鏡の中には、この時代に生きた人々の姿や心情を表わしたものがある。

人々の姿

漢時代の人々の容姿は絵画資料や墳墓に副葬された俑などから知ることができるが、銅鏡にも鏡背面に描かれた彩絵や図像に人々の容姿を表わすものがある。



狩猟

草原で獣を追い詰め、馬上から振り返りながら弓を放つ。狩猟は漢時代の貴族の楽しみの一つだった。



対面

向かい合う人物。その後ろには器物をもつ人々が従うが、左側の2人は顔を見合せる。



六博

六博は双六に似たボードゲームで漢時代頃に大流行した。ゲームに白熱する様子がうかがえる。

馬を牽く

狩猟と同じ馬を牽く人物。両側には器物をもつ複数の人物が従い、右側の2人は馬に駆け寄る。

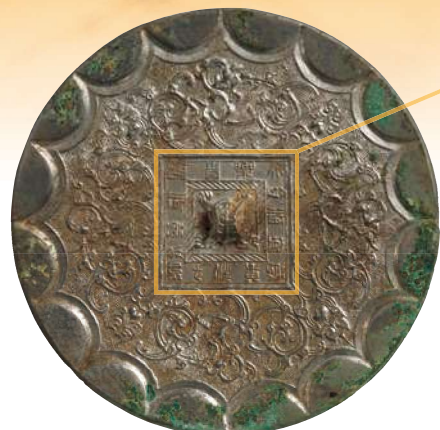


さい かい じん ぶつ しゃ ば きょう
彩絵人物車馬鏡 前漢／径 23.1cm 【76】

鏡背面の外区には彩絵が残り、4つの四葉紋を配して区画された中に4つの人物を描いた場面が描かれている。銅鏡の制作時期は、その形態から漢王朝の全盛期である紀元前2世紀後半頃と推定される。それぞれの場面の関連は明らかではないが、登場人物が祭祀や朝廷用の冠を着用していないことから、貴族たちの日常の交流の場面を映し出しているのだろう。

人々の想い

前漢時代前半になり銅鏡に銘文が現れる。詩の形式をとる銘文からは、漢時代に生きる人々の心情や願望が映し出される。



【銘文】

貴 樂 大 ◀
富 朝 莫 有
食 酒 耳 藏
臺 士 將 單

文意

心が安らぎ、身分・財産に恵まれいつも祝い事がある。
長生きし、食事や酒に恵まれる。

読み下し文

大いに楽しく貴富にして、
朝から暮れまで喜び有り。
千秋萬歳も、
酒食に宜しからん。

ち りゅうもん きょう
螭龍紋鏡 前漢／径16.2cm【90】

漢王朝が全盛期を迎える時期、人々の素直な願望を記した銘文が現れるが、この鏡もその一つ。鈕座周囲には日々の暮らしが満たされ、幸福が永遠に続くことを願う銘文が記されている。

い たい じ めい たい きょう しやうめい きょう
異体字銘帯鏡(昭明鏡) 前漢／径13.1cm【107】

銘文は『楚辞』『離騷』*の詩形になぞらえ、清い忠誠の気持ちが主君への届かないもどかしさを記す。その内容に人々は共感し、受容した。

※『楚辞』『離騷』：戦国時代に成立した楚の国の歌謡やそれに倣った後世の詩歌を集めた詩集。『離騷』は『楚辞』を代表する作品。

【銘文】

文意
清らかな鏡の光を受けると忠誠心が高まる。しかしその気持ちは主君に届かない。
（外区）
読み下し文
内は清質にして以て昭明なり、
光輝はその日月にいたり。
心は忽揚として忠を願う、
しかれども雍塞して泄らず。

文意

日の光を受ける。
お互いがいつまでも忘れることがないように。

（内区）

原文・読み下し文

見日之光。
日の光あらわる。
長母相忘。
長く相い忘るるなかれ。

が ぞう きょう
画像鏡 後漢／径23.2cm【146】

神仙が歌舞などに興じる天上世界を表わしている。第7代皇帝の武帝をはじめ、漢時代に生きた貴族から庶民までの多くの人々は羽化登仙*して不老不死となり、天上世界に暮らすことを願った。

※羽化登仙：仙人となり、天上界へ至ること

漢時代年表

秦	前漢				新	後漢				三国	
	紀元前2世紀		紀元前1世紀			紀元後1世紀		紀元後2世紀		紀元後3世紀	
202 劉邦が即位し前漢建国	154 呉楚七国の乱 (中央集権体制の確立)	141 武帝即位 (王朝の全盛期)	129 対匈奴遠征開始	87 武帝崩御 (人民の疲弊)	51 匈奴の帰属 (儒教思想の普及)	8 前漢滅亡 王莽が即位し新建国	23 新滅亡	25 光武帝が即位し後漢建国	57 倭奴国王朝貢	184 黄巾の乱 (王朝の衰退)	220 後漢滅亡